



《将来に向けた取組方針》

マツダグループは、自動車製造・販売の事業活動で受ける自然の恵みと自然への影響の重要性を認識し、「マツダ生物多様性ガイドライン」に基づき、社会・地域と連携した生物多様性の取り組みを展開しています。

《重点取り組み項目》

1. 環境に配慮した技術と商品の創造
2. 資源・エネルギーを大切にせる企業活動
3. 社会や地域との連携・協力
4. 啓発と情報開示

マツダは「生物多様性に関する影響度評価」の結果を踏まえ、社会との連携や従業員をはじめとした幅広い啓発活動を行っています。また本業においては「エネルギー」や水資源を含む「資源」を重点として生物多様性への影響を軽減するための商品・技術およびその生産・物流工程で取り組みを進めています。

《具体的取組み事例》

1. 環境に配慮した技術と商品の創造

- ・SKYACTIV 技術の継続的進化
- ・電気自動車
- ・リサイクルに配慮した開発・設計

2. 資源・エネルギーを大切にせる企業活動

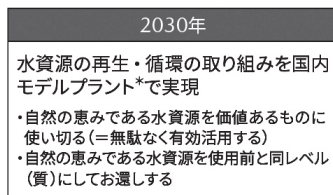
- ・生産工程の設備稼働率の向上、サイクルタイム短縮
- ・工場新設時の調査・配慮

3. 社会や地域との連携・協力

- ・森林保全活動、野生生物の保護支援など
- ・私有地での生物多様性の取り組み

4. 啓発と情報開示

- ・マツダ財団を通じた助成活動
- ・社会貢献への取り組みの啓発と情報開示
- ・従業員に対する教育・啓発
- ・マツダサステナビリティレポートなどを通じた社内外への取り組み紹介



*モデルプラント:新しい試みなどを先行して実施する施設

目指す姿

【資源の多様化】

- ・雨水の有効活用 など

IN PUT

取水

生産工程

排水

再生水

再生水の利用拡大 など

OUT PUT

放流

【資源の価値最大化】

- ・取水時と同レベルの水質 など

取水

生産工程

排水

再生水

再生水の利用拡大 など

OUT PUT

放流

《今後の課題等》

- ・水資源保全の観点から「使用する水資源の無駄を無くす」「使用した水資源を取水時と同じレベル(質)でお還する」という取り組みを進めています。2030年における水資源の再生・循環の取り組みを国内モデルプラントで実現するために、国内のマツダグループ全体の取水量を2030年に2013年比で38%削減する目標を定め、取り組みを進めます。

《社会に向けたメッセージ》

- ・マツダグループは、国内・海外での事業活動を通じた生物多様性の取り組みで、人と自然が調和した豊かで持続可能な社会づくりとその発展を目指します。